

アフガニスタン・気候変動対策事業

アフガニスタンを忘れない—人々に寄り添う中長期の支援

社会課題



アフガニスタンは、1970年代から続く紛争や内紛によって経済や社会インフラが壊滅的な被害を受け、2021年に起きた政変の影響と新型コロナウイルス感染症のまん延も重なり、人びとはかつてないほど深刻な人道危機に直面しています。さらに、気候変動に伴う気温上昇や気象の変化が様々な自然災害を引き起こしています。特に、長引く干ばつは、国民の8割が生計を依存する農業の土地と家畜を奪い、人々の生活を困窮させ、故郷を離れることを余儀なくさせています。

赤十字の解決策

- 緊急支援が必要なアフガニスタンでも、外部からの支援だけでなく、人びとが自らの力で気候変動がもたらす影響に対応していくことを目指す、長期的・複合的視点を踏まえた5か年の開発事業を実施
- 全国34州の全てに活動拠点を持ち、中立・公平・独立の原則と信頼に基づき、他の組織にはアクセス困難な地域の人びとにも支援を届けることのできるアフガニスタン赤新月社が活動をリード
- 予測困難な社会情勢の中でも、国際赤十字が関係機関との調整を担い、信頼性と透明性の高い事業の遂行をバックアップ

活動分野	対象	活動内容
生計支援	2つの州 (ヘルート・タハール) 7,200世帯	<ul style="list-style-type: none">気候関連のリスクを軽減し、ぜい弱な世帯の社会経済的発展のための植樹職業訓練と資金支援による新たな生計手段の創出
防災・減災	2つの州 (ヘルート・タハール) 1,000世帯	<ul style="list-style-type: none">学校における衛生促進や救急法研修等を実施し、防災・減災に関する正しい知識の普及早期警報システムに対する意識を高め、災害リスクに基づく安全計画の策定や防災訓練の実施、防災資機材の整備等、コミュニティと学校が災害に備える力を強化

【SDGsとの関係性】



幾多の困難の中で、コミュニティ活動を継続中。これまでの主な活動と成果。

■ 太陽光発電によるポンプシステムを10基導入



令和6年度まで事業対象地であったヘラート州及びサマンガン州の近年の降水量は過去平均降水量と比較し、25から40%低く、土地は乾燥し、植物の生育に悪影響を与えています。干ばつ被害が深刻な地域で土地の緑化促進及び植林した苗木の成長を促進するため、かんがい用ポンプシステムを導入しました。ヘラート州に8基、サマンガン州に2基の合計10基を設置しました。土地は潤いはじめ、きれいな水で苗木が成長し、人びとの食料及び収入源になることが期待されています。

太陽光発電によるポンプシステムを導入し、
透き通った水が農地を緑化する © IFRC

■ アフガニスタン人女性の自立した生活を支援

同国では女性の権利が制限される状況が続いており、地域社会の貧困を悪化させています。ヘラート州では100人の女性世帯主を対象に洋服仕立ての職業訓練を実施し、女性の経済的自立と尊厳の向上に寄与しています。



職業訓練を受け刺繡をする
アフガニスタン人女性 © IFRC

■ アフガニスタン赤新月社、コミュニティ、学校の連携強化



コミュニティの住民1,200人を対象に、災害リスク軽減、救急法、衛生推進などの研修を合計80回開催し、職員・ボランティアと住民の連携強化を図りました。また、自主防災組織の育成や、教員からなる防災委員会を学校に設置するなど、コミュニティ全体で防災に注力しています。

小学校で防災教育を実施する学校防災委員 © IFRC

今後予定している主な活動

【生計支援】

- ヘラート州及びタハール州における一人で生計を立てる女性に6ヶ月間の職業訓練を実施
- 9,000人の世帯主、若者、ボランティアに対し、ビジネススキルと市場運動に関する研修の実施

【防災・減災】

- 災害リスク管理計画の策定し、防災訓練や災害シミュレーション演習の実施
- 人々の環境意識を向上させ、自然資源の保護を目指す啓発イベントを開催